株式・FX で儲ける知識1.0

【顧問先へのメッセージの趣旨】
会社が本業で稼げない時節を迎えたら、会社社長の仕事は倒産を防止することになる。
しかし、会社衰退に繋がる経費節減や危ない節税は時代遅れである。
では、どうするか？発展的な会社経営は儲かる職域「株式・FX 投資」で儲けを増やすことだ。
そのための「基礎知識」は、新聞に振回されず、経済事実に基づき社長の「経営感覚」を磨こう。

◆米ドル暴落の日柄
米ドル金兌換停止で円ドル 360 円が 308 円になった Nixon Shock,昭和 46 年 NY1971 年 8 月 15 日は大昔。しかしその 54 年後 NY2025 年 8 月 15 日は米ドル暴落の日柄だ。

その根拠の 54 と云う数字はフィボネッチ系黄金律数理で正五角形内角 540 度に由来する 54 単位。その対角線 18 度線を辿れば 130 円前後だろうか？　その為替変動の延長線上で NY2028 年 2 月頃には米ドル相場は対角線 72 度を蔦って落ちる場面があれば、当日の円ドルは 95 円前後となる。その線が濃いという。

固定相場制から変動相場制に移行した昭和 48 年 NY1973 年 2 月 14 日の為替レートが 1 ドル=308 円は 1 ドル 277 円となった。当日も米ドル暴落の日柄。上記 2 つ日柄, NY2025 年 8 月 15 日と、NY2027 年 2 月 14 日のどちらの日柄に円ドルは暴落するだろうか？ 為替は人為的な大事件に係る三次元の時空の起きるフィボナッチ系物理と黄金律数理に基づいてこの時空に起きる超常現象と診得る自然現象である。通常経済の常識人には、当るも八卦、外れても八卦である（笑）。

◆2025 年から 2030 年の株価急上昇
因みにこの黄金律数理によると、日本帝国敗戦 1945 年 8 月から 100 年（黄金律では 95.5 年）は 2041 年 2 月に再び日本経済は破滅の底にあるがその前、2025 年春から 2030 年に向け株価は急上昇する。

即ち、1989 年 12 月の東証ピーク 38975 円から 160 か月（黄金律 162 単位、約 13.5 年）で且つ、大政奉還による王政復古 1868 年明治元年1月 3 日のから 162 年（黄金律そのもの）は、日本経済の大底 2003 年 6 月（株底 7604 円 2003 年4月）である。それから、27 年（54 年の半分）の時空を経て凡そ 2030 年頃迄日本株は急上昇する。

◆2027 年 4 月頃の米ドル暴落
1949 年 4 月ドル円 360 制定から五角形の高さ 59 単位 29.5 年を経が 1978 年 10 月 30 日のドル円 177.05 円のドル安日柄から、黄金律 1.618 単位 16.18 年×3 回転後の 2027 年 4 月頃（米中間選挙直後の頃）、米ドルは暴落し、急激な円高に振れる日柄である。または、黄金律 13.5 単位（54÷4）の 13.5 年×3 回転半 47.25 年後 2026 年 1 月頃もドル安円高の日柄である。

◆米 NY ダウは 2031 年半ばから上昇
なお、2025 年現在冴えない米国経済はなお大不況 1932 年から 100 年（黄金律では 95.5 年）の 2027 年頃の苦難を経て、2031 年半ばからは米株が上がる。その時期、日本株は下がる。即ち、米国では 1927 年世界不況を上回る NY ダウ下落をみたブラックマンデイを経験した。1987 年 10 月 19 日月曜日の NY 株式市場の大暴落のこと。ダウ工業株 30 種平均は、1 日で 22.6%508 ドル下落した。米国は財政赤字と貿易赤字の「双子の赤字」でドル安に伴うインフレ懸念が原因とされる。その 1987 年から正五角形の一辺 38.2 単位を経過する 38.2 年後 2026 年 1 月頃もドル暴

Copyright©2025, AACCX Inc., All Rights Reserved.

落の日柄です（物理に現れるか否かは「天の配剤」による）。

為替相場は 1978 年 10 月 30 日に円ドル 177.05 円を付け、1982 年 11 月 3 日に円ドル 278.31 円に戻しました。しかし、その後 16.18 年（1.618 単位は黄金律そのもの）×3 回転 48.5 年後 2031 年 6 月頃に NY ダウは、経済苦境を乗越えて高値を目指すことになる。なお、為替と株価は連動するとは限らない別の摂理で動くものである。NY ダウ平均について期待的に言えば、トランプ共和党の MAGA 政策が就任当初に青写真されて、米財政再建への前途が見え始めるころであろうか？（ガザ、北朝、パナマ運河、グリーンランド等の巨大ディールがそれである）。尤もその頃にはトランプ大統領は 2029 年 1 月 19 日に任期切れとなっている。後継者が志を継いでいるだろう。

◆備考（黄金律数理の説明）

⑴ 開発者

なお、この正五角形の黄金律数理の数十年を掛けた開発者は NY 在住で京大出身の元三菱 UFJ 銀行勤務の若林栄四氏である。その「超人為」な論理によると、黄金律系の数学数理が、時空の物理空間に投影されるとき、フィボナッチ数列はその特徴を持って自律的に「枝の新芽」を出す。経済界の為替変化への影響がその例である。経済界の動きに対して「天の配剤」として、為替が動き、株価が上下する。正五角形の内角 540 度に係る例えば「54 単位」は、色々な為替数理の手品として、物理事象たる為替変動の日柄に現れたり現れなかったりする。

⑵ 時間（長さ）と値段（高さ）

フィボナッチ系黄金律数理は、物理上の時間と空間の経過にその時々の持ち駒を投影する。例えば「54 単位」の例では、54 年、54 四半期等々として為替を規律する。また時の経過系の「単位」と「株価や為替」に掛かる正五角形を基軸とする高さ（価額）を規制する。また、正五角形の対角線の角度（18 度、36 度、72 度等）は数学のサイン・コサイン・タンジェントの数理を通じて、時空の距離、相場のボラティリティを規制する。

⑶ この世の時空に顕現する数値

数理系黄金律を投影する数値は 54 単位 54 年が昭和 46 年 1971 年 8 月 15 日（Nixon Shock）には当てはまり、2025 年 8 月 15 日が円ドル為替はドル暴落となる。しかしもう少し詳しく事情を診ると、実際に変動相場制に移行したのは 1971 年 8 月 28 日固定相場制の 1 ドル 360 円から変動相場制へ移行するも、1971 年 12 月 18 日のスミソニアン協定で 1 ドル 308 円固定相場とされた。しかしドル相場の下落で 1973 年 2 月に再び変動相場制へ移行し 1 ドル 265.8 円をつけた。

この動きについて、黄金律系やフィボナッチ数列の数理として、どの日柄が選択されるのかは、天のみ知るところである。1973 年 2 月が変動相場制に入った実質的な日柄である。それを天の神様が円ドル変動相場制移行の日と判断すれば、その日になる。象徴的なニクソン大統領の発表日とすれば、NY1971 年 8 月 15 日である。その手続きがされたのは 8 月28日である。

当職が日柄を象徴的な 1971 年 8 月 15 日のニクソン発令日としたのは、大事件の日として捉えたからである。そうすると、54 年目は NY2025 年 8 月 15 日となる。実際の為替変動制の日柄 1973 年 2 月とすれば、54 年目は NY2027 年 2 月（米大統領中間選挙の頃）が、米ドル大暴落の日柄となる。どちらが選択されるかは、フィボナッチ数列の「樹木新枝の発芽」と同様、結果を視て「天がそのように判断した」と理解することになる。幾つかの選択肢があるケースではそうなる。もっとしつこく言えば、人間には読めないその物理状況（例えばその時のそのことに掛かる出力エネルギーの量）に拠り、天の神様がその事象に関して黄金律系数理の必然的な選択をするのである。

Copyright©2025, AACCX Inc., All Rights Reserved.